

学校運営協議会の評価（学校関係者評価）

児童・生徒及び保護者が行った学校・授業評価をもとに、学校による自己評価について、第2回学校運営協議会（12月10日）と後日配布したアンケート結果より、以下のように評価しました。

1 学びづくり評価について

- ・授業を根幹に据えて協働の学びの質を高めるために、共育展望会議でも児童生徒の個に応じた指導を進めていく取り組みがなされており、特に児童生徒の失敗も認める対応を評価する。
- ・複数担任制を活かし、職員間で情報の共有を行うなど創意工夫がされている。地道に一步一步前進できればと思う。複数担任制の試行について、今年度実施した中での評価や実態、さらに次年度に向けての課題についても記載があるとよい。
- ・会話に加わった児童は進展があったと思うが、加わっていなかった児童に学びはあったのか。対話を苦手とする子どもたちへの支援への具体的な対策案として、対話の場面に必要感を持たせるようなメリハリが必要と思われる。
- ・異学年合同の授業を取り入れるなど協働の学びの実践がしっかり行われていて、以前対話的な学びがあまり進んでいない先生方もかなり変化してきた。普段の対話的な学びづくりが実践されていることから、総合的な学習の時間の地域協働の学びがとても効果的に進んでいると感じる。時々特性のある子どもたちが協働の学びに入らないでいることもあるので、今後どう対応するのか検討改善が必要と感じる。
- ・特認校制度の現状について、制度的な内容の見直しが課題と思われる。受け入れ態勢に応じたキャパ設定、受け入れるにあたっての協力確認事項等、制度を持続させていくためにも必要な時期かと感じる。少人数であるからこそ、集団における支援を必要とする子の比重は大きく、その割合が大きくなりすぎると集団が成立しない事例が多くある。特認校制度が、逃避的な理由のみでの利用に偏らないよう、規約や受け入れ過程を見直していく必要があると感じる。
- ・ICTを活用した授業について、導入段階から先生方の試行錯誤により使い方のペースをつかんでいる子もいる中で、多様な特性を持つ子がいる学級内で行う授業において、個々の特性に合わせた活用方法を確立していくことの難しさがあるのではないかと。また、クロムブックを利用する頻度に加え、対話と同時併用するクロムブックの共存について、これまで高めてきた対話の質を維持しながら授業を行えているのか、その点について先生方と児童生徒両側からの検証も必要かと感じる。メリットとして情報活用能力を高めることには特化できるが、目の前にないものを想像し、イメージーションを掻き立て、思考をめぐらす時間を抜きにしてすぐにPCに飛びつく活用は避ける等、本質的なものを大切にしながらの共存が難しいのではないかと感じる。
- ・少人数では異なる意見が出にくいので、児童生徒の秀でたところや興味関心のあることを見つけて、学習の方向付けをしてほしいと思う。
- ・夢の時間での地域の方との関わりが少なくなってきたので、その機会を増やしていければ、もっと学びが深まると思う。

2 体づくりへの評価について

- ・ 共育展望会議に出席し、児童生徒の体力づくり健康づくりに運動の楽しさを味わう工夫が検討されていることを知った。今後も元気アップ運動を進めていただきたい。
- ・ 元気アップ運動で体を動かすことの楽しさは身についてきているので、生活習慣は家庭から始まることを自覚してもらうよう引き続き保護者に啓発していくとよい。
- ・ 家庭での睡眠等生活習慣が日中の学校生活の体調に及ぼす影響は大きい。親の指導に差があるので、学校では個別観察が重要と思われる。
- ・ 楽しみがないと前向きに体が動かない。ゲーム性は効果的であり更に進めたい。
- ・ 元気アップ運動がしっかりと行われている。見学の多い子どもたちへの対策に工夫がみられてよいが、まだ、特性のある子どもが参加しないなどの課題があるように思われる。
- ・ 体力づくりは家庭や地域の影響があるので、家庭で行うことや、地域で取り組んでいく必要もあると思う。具体的には、行政（市の住民課や教育委員会）地域（公民館や民生係、地域づくり会議や社協、シニアクラブなど）を挙げて取り組むとよい。

3 集団づくりへの評価について

- ・ 自己評価の結果の内容は適切である。
- ・ 児童生徒の多様性に対応できるように進めていただきたい。
- ・ 認められること、参加できたことはグループの輪の参加への励みになる。
- ・ 自発的、積極的に集団に参加するきっかけ作りが必要と思われる。
- ・ 歌声づくりや自治会の活動が上級生の意識の高さから自主的によくできていると思う。ただ、コロナ禍のせいもあり学校での合唱が練習不足で、例年ほどの成果が出せていなかったのは残念に感じた。
- ・ 子ども同士のトラブルは成長過程で必要なことと考え、引き続き教師同士で連絡を取り合う体制を推進していただきたい。
- ・ ステップ期のメンドシーノの体験不足を補う具体的な活動を模索していくことは良いと思う。
- ・ 感動したことや本やニュース、また、自分が感謝したい人への言葉を発表し合うことで、様々な個性を理解するのに役立ててみてはどうか。
- ・ 多様性もあり、さらに配慮を要する子どもたちが学ぶ少人数学級では、個々の能力の差が大きい中、どこに基準を設けて授業づくりをしていくかが難しいところかと思う。「そろえない」「ルールで縛らない」という原則で集団づくりを進めていく中、学習面での進捗や課題共有、個別最適化という命題に向かって授業を作り上げていく先生方の指導力がさらに求められる状況下、日々の研修や職員間の共有を密にされていることをありがたく感じる。

美麻学校運営協議会長

北沢 伊結男